

第115号

たのしみ 館報

発行
 長野市立芹田公民館
 TEL 228-3659
 FAX 462-1010
 編集・発行人
 岩下 透
 印刷所 富士印刷(株)

芹田の人口と世帯数 (R5.6.1 現在) 男 13,575 人 女 13,522 人 計 27,097 人 13,609 世帯



HPはこちら

「多文化交流会」でせりたの地に国際化の華が咲く！

アジア6か国の若者の瞳は

キラキラと輝いていた！

芹田支所の窓口に異国の若い人たちがよく来られます。実情を伺うと市内の専門学校「平青学園」の留学生が芹田地区周辺に住んでいるとのこと。自分は、英語などの異国語で話かけられるのではないかとビクビクして彼らを遠めに見ていましたが、ちよつと会釈をすると「こんにちは！」と素直に日本語であいさつしてくれるのです。何となく、気持ちのよい若者達だなあーと漠然と思っていました。



「そうですね。そうだね。そうだと思います。なんて知ったかぶりの返事をして、「ぜひ、やりましょう！」と、ボールを投げ返しました。

そんなおり、長野市社会福祉協議会の伝手で、「平青学園」の先生とお会いできることができました。ひよんなことから「多文化交流」しませんか？ と、ボールを投げられました。さてさて、初めて聞く単語です。「多文化交流」？ なんだ、それ。つて言うのが本音で、恥を忍んで先生にお聞きすると「異なる文化の人々とコミュニケーションを図ること」とのことです。



企画名は「せりた多文化交流会」、2月に「出身国紹介」、3月に「伝統的なお茶紹介」をテーマに、留学生約30名、地域の方々約20名に参加いただき、それぞれのカテゴリーに興味津々に取り組みました。留学生の母国は、インドネシア、スリランカ、ネパール、ベトナム、フィリピン、タイで、民族衣装で登場した留学生もいて、和気あいあいとした交流となりました。一番に感心することは、彼らの日本語の素晴らしさです。学年で多少の差はあるものの、問題なく会話が進みます。増して、母国語の他に英語も堪能なのです。日本語のみの我々はたじろぎながら、相槌を繰り返すありさま。「凄いな。よく勉強しているね」と聞くと、「しゃべれるけど、書

くのは難しい。漢字は難し過ぎる」とのこと。苦労しているのですね。頑張ってください。応援しています。

さて、当館の料理室を利用いただいて、この5月に「そば打ち体験」しました。最高学年の11名、スリランカ、ネパール、タイ、フィリピンの男性5名、女性6名がチャレンジしたのです。そばの講師は当館の名匠・山本修作先生。事前の相談から英語版のテキストまで作成してもらい、懇切丁寧に教えていただきました。彼らもナンなどの粉文化があるのだから、こねるのはお手のもの、打ち粉の分量もまるっきりの素人には思えませんでした。しかし、やはりそば状に切るのは難儀そうでした。先生も「ワン！ ツー！ ワン！ ツー！」とリズムをとる感じで包丁に手を添えながら、額に汗してフォロワーしておりました。

出来上がったそばを茹で、試食の感想は「美味しい。」とうなずきますが、欲目に見



ても美味しそうに食しているように見えません。学園の先生の話でそばつゆのたれの甘さがなかなか好みに合わないようです。でも、これも経験です。日本のそばを体験してもらえて食べてもらって、日本文化の経験は今後に大きな糧となるのです。

さて、ここで芹田地区のみなさんにお願いです。彼らと話を進めると言葉の端々に「早く国に帰りたい！ 家族に逢いたい！」との言葉が漏れます。それはそうです。異国に来ての寂しい思いは当然のことです。留学に「苦」はつきものかもしれません。でも、時には「楽」があつてもいいじゃないですか。留学生を見かけたら日本語でいいので、声をかけてあげてください。必ず彼らは返してくれます。そんなことでお互い気持ちよくなつて、寂しさが和らげばこんなハッピーことはないです。交流を通じて相手を思いやり、共感しながら住みよい街、せりたに『世界にひとつの花を咲かせましょう！』

公民館に男性を！「芹田男塾」の開講！！

芹田公民館 館長 岩下 透

厳しい寒い冬を乗り越え、ますますとやってくるのが年度末です。毎年の事ですが、その年の反省をして、抽出した課題の中に必ずあるものが「男性の来館者が少ない」とまとめられています。これは由々しきことと思いつながら、例年その問題をスルーしてきた実態があり、「何とかならんかなあ」と思う毎日であります。男性を公民館に呼び込むにはどうしたらよいものか？ なかなか良いアイデアが出てきません。「講座に参加してくれたら、缶ビール一本サービス！」なんて冗談っぽい話ばかりで、前に進みません。多くの人の意見を聞こうと、お隣の芹田住自協の



社会福祉協議会（あと「杜協」）でお願いいたします（の皆さんに相談してみまし

た。参考になるかどうか興味深い話がありました。杜協さんの主催したイベントに『自宅で作る味噌づくり』というのがある。その参加者の8割が男性であつたとのことでした。8割は凄いなあと思いつつ、当館の講座についても見直したところ、ありました！ 我が芹田公民館にも男性受講者の多い講座がありました。それは『そば打ち 芹田道場』で、7割が男性でありました。

なんで男性は味噌とそばが好きなのでしょう。結論的には男性はコツ（頑固）なものが好きなのです。味噌もそばもコツ（頑固）なモノなのです。だからコツ（頑固）な講座を企画すれば男性は来てくれるのです。事は単純明快なモノだったので、そこから先が大変です。それじゃ、コツ（頑固）な講座つ

てなにあるのか、皆さんに羅列していただきました。男性が好きコツ（頑固）なモノ。あげたら切りが無いくらいアイデアが出てきました。何か話がとんとん拍子に弾んで、男性講座を受講者同じメンバーでシリーズ化しようとの流れに到達いたしました。本当に大丈夫なのか？ 本気でやるのか？ 館長の不安を他所において、杜協さんを含めた職員が一斉に始動しました。

まずは、企画に沿った講師さんを探さなければなりません。館長の心配はなんのその、簡単ではありませんが、何とプロフェッショナルな、その道のプロの方たちには講師をお受けいただけただけです。それも4人！

◆コーヒー豆自家焙煎店オーナー
◆レストランのシェフ
◆こうじ専門店の店員さん
◆水産物協同組合の先生
素晴らしい方々で、講座の趣旨をお伝えしたところ、快く賛同していただきました。我々ス

タツも心が高揚して、わくわく感が満載になりました。さあ、企画のスタートです。ネーミングはその道のプロに学ぶ！！『芹田男塾・男性優先！ 全4回講座・定員8名』。いやあ、カッコイイ講座名ですね。惚れ惚れしてしまうこのネーミングに自画自賛しております。

◆第1回おいしいコーヒーの淹れ方 ☆ハンドドリップで淹れてみよう
◆第2回家庭のカレーワンランクUP ☆市販ルーを使ったおいしいカレー
◆第3回手前みそを自慢しようのみそ作り ☆発酵についてとみそ作り
◆第4回魚のさばき方 ☆魚をさばいてお刺身をつくる
6月から講座を開始して、約1カ月毎のシリーズ化で11月下旬に全回を終えました。各回の講師の皆さんは教材の用意はもちろん資料もわかりやすく丁寧に作成していただいて、公民館の講座に対してこんなに献身的にに応じてもらって、本当に頭が下がる思いです。

そんなプロフェッショナルな講師の方々の教えもあって、受講者アンケートの結果は7名が満足、1名がやや満足と高評価をいただいたところです。各回の講座を少し覗いたところ、その道のプロが使う道具に皆さん興味をもたれていたようです。道具（ツール）は男心を刺激するアイテムなのです。特に魚をさばく包丁は、公民館に備え付けのものでは役にたたず、受講者分の専用の包丁を講師の先生に調達していただきました。その切れ味が驚愕し、どうやって手に入れられるのか質問が集中しました。皆さんが欲しかったようです。

この企画で8名の男性に芹田公民館を知っていただきました。たった8名ですが、されど8名です。8人の方々の口コミを期待して、次年度も男塾を開催したいと考えています。最後にひと言、

『芹田男塾の塾生はコツ（頑固）な人、塾に通えばどんなヤツ（奴）でもオツ（乙）な人』 「オツ」で並べてみました。男性って面倒臭いようですね。

『芹田男塾の塾生はコツ（頑固）な人、塾に通えばどんなヤツ（奴）でもオツ（乙）な人』 「オツ」で並べてみました。男性って面倒臭いようですね。



「金継ぎ」繕いを景色として楽しむ技法

「初めての金継ぎ体験」講師

北村 直子

割れてしまった器を漆によって補修する技術は縄文時代から始まり室町時代に金継ぎとして発展を遂げています。それは不完全なものにも美を見出す侘びさびの世界。まさに今、私が学んでみたい……と動かされた「金継ぎ」であります。

古き良き時代にも壊れてしまったものを繕い、景色として蘇らせそれを楽しむ……貴重な時代だからこそその必要な技法だったのかもしれない。

しかしながら難しく考えず、せっかく古来よりあるこの技術を壊れてしまった器と向き合い繕ってみたい……という純粋な好奇心を是非皆さんと味わってみたいのです。



天然素材である漆を使い、身体にも優しく仕上げて行くゆったりとした豊かな時間を共有し、そして傷を繕いながら自らを繕う……そんな気持ちで体験してはいかがでしょう？

是非お待ちしております。

「消しゴムはんこ講座」に参加して

山口 美樹

芹田公民館で、以前から興味があった「消しゴムはんこ講座」があることを知り参加しました。

まずは干支に因んだうさぎの図案をトレーシングペーパーに写し、消しゴムはんこ用の板に転写します。

次にデザ

インカツ

ターで白くしたい部分を彫り出す。初心者には難しい図案を選ん



のか、細かい部分を彫るのに苦戦しましたが、先生に助けていただきながら、何とか彫り上げる事ができました。

最後に恐る恐る試し押しをすると、可愛いうさぎが現れてひと安心です。先生の丁寧なご指導のもと、2時間ほどで完成した消しゴムはんこ。手作りの味わいがあり、我ながらよくできたと思います。

新しい趣味が一つ増えました。楽しい時間をありがとうございました。

「そば打ち芹田道場」参加体験記

藤尾 俊彦

子どもの頃、そばはあまり好きでなく、うどんの方がおいしいと思っていました。

就職し、山形に転勤になりました。そばが好きになりました。初めて食べたそばは顎が疲れたことを思い出します。

北海道への勤務となり、紋別のいずみ食堂にて「かもきのこそば」を食べたところ、鴨肉と袖に魅了されました。鴨肉と袖を購入し、その味を求めて試行錯誤を重ねる日々が続く。……以下省略 以上が私のそば遍歴でございます。

年金が貰える歳となり、仕事をリタイヤして、時間に余裕が持てるようになった頃、ふと、閲覧板でそば打ち講座が目にとまり、参加を考えるが新型コロナウイルスによりやむを得ず、見送ることとなりました。

コロナが一段落して、そば打ち講座が再開されるようになると、今回は迷わず参加を決めました。「そば打ち芹田道場」初心者コース7月7日に申し込ませて、手厚い材料の手配と手厚い講師の助言と手厚い実技補助により、無事そば打ち完了いたしました。完成したそばの試食（おろしそば）は最高の喜びで、あの感動は忘れられません。そんな感動を他所に、材料の手配・そ

そば打ち方法の詳細が分からないと自分一人ではできないかな？との思いにふけてしまいます。

改めて「そば打ち芹田道場」6回コース（初心者）の募集があったので、再び申込みました。1回目、手厚い材料手配と講師の先生方の手厚い助言と実技指導により無事に打ちあげました。自作品の試食のきのこそばの味は至福の至りでありました。今回は「そば打ち技術の基本」資料が添えてあり、詳しい内容が網羅されていて、1人で作成することが可能かなと思っていました。

1卓2人に講師1人体制での実施がありました。最初の1人が1時間程で打ち上げ、続いて2人目がもう1時間を要しました。最後に試食の行程であって、同卓の方が経験者であったため最後に取り組んでもらい、その打ち方をまねしながら2人目としてそば打ち作業したところです。3回目の時、「それでは藤尾さんから」と云われ、内心焦りましたが覚悟を決めて取り組んだ事が思い出されます。

毎回異なる試食メニューとそばに関わる様々な資料を提供していただき、貴重な自前資料が整いました。講師の先生方の手厚い助言と手厚い実技指導に感謝申し上げます。



芹田ぶらぶら歩き

5

栗田氏は、戸隠寺(顕光寺)の別当や、

芹田地区は昔、丹波島の渡しと、善光寺に向かう北国街道を中心に栄えた地域でこの他は農村地帯と思っけていました。しかし、芹田地区内を散歩して栗田と中千田にお城があり武士が住んでいたことを知りました。

栗田地区に戦国時代末まで、栗田城(堀の内城)と呼ばれる城と、中千田地区の現在国道18号の中千田信号機あたりに千田氏が築城した千田城があったようです。

栗田城は、平安時代末期の初代「寛覚」(寛範・範覚)から戦国時代末期までの約400年間、千田城も鎌倉時代から戦国時代まで約400年栄えたようです。

栗田城は二重の堀をめぐらせた複郭平城で、大きさは、東西709m、南北1,090mの回字形で中央に218mの方形の主郭がありました。長野市では最大規模の館跡の一つと言われています。

現在、主郭跡には西から北にめぐり幅11m、高さ9m、長さ40mほどの築堤が残り、北西隅には現在水内総社日吉大神社本殿(栗田神社)があります。お城は村上氏(信濃東部から北部にかけての豪族)から分家して、栗田郷に住していた2代目栗田仲国が築城したと言われています。



善光寺の別当も兼務していました。室町時代の頃から、戸隠寺別当の「山栗田」と善光寺別当の「里栗田」に分かれて、それぞれの一族が継承していましたが、戦国時代の上杉・武田の戦に巻き込まれ、里栗田は武田氏・山栗田は上杉氏と分裂しました。里栗田の栗田氏は善光寺とともに上杉と戦ったが、

武田氏が一時甲府に善光寺本尊を移転した時、甲斐善光寺別当となった。栗田氏が甲府に移ったあと城は廃城となりました。栗田氏はその後に善光寺に帰り善光寺東隣に、栗田にあった栗田寺を移し寛慶寺と称した。山栗田は明治政府の神仏分離令等により戸隠寺(顕光寺)を分離して神社となり神官となりました。

一方、千田氏は2代目千田親清が瑠璃光寺を再建し千田氏の菩提寺とするなど地域を治めていましたが、村上義清に従い武田信玄と戦い負けて上杉を頼り去り、その後は分かっていません。千田領が武田氏の領地になったため、城は取り壊されてしまいました。

このように、芹田地区に戦国時代までの400年間もの間お城があったことを是非地域の皆さんに知っていただき、芹田地区をまた違う視点で散策してはいかがでしょうか。

講座の予定について

講座の詳細については、毎月の講座チラシの閲覧や公民館ホームページでご案内していますので、確認をお願いいたします。

成人学校講座紹介

- 月曜日・太極拳
- 火曜日・水彩画を楽しもう(新講座)
- ・陶芸(午前)
- ・かんたん着物リフォーム
- 水曜日・やさしい英会話
- ・陶芸(夜間)
- 木曜日・パッチワーク
- ・陶芸(午前)
- ・Let's Sing a Song
- 金曜日・書道(新講座)
- ※原則3学期制(36回)
- かんたん着物リフォームとパッチワークは2学期制(24回)

芹田地区地域公民館連絡協議会

- 会長 日詰公民館(前館長)
- 副会長 北中公民館
- 副会長 若里西町公民館
- 会計 中千田公民館
- 幹事 川合新田公民館
- 母袋公民館
- 上千田公民館
- 北中公民館
- 南中公民館
- 荒木公民館
- 栗田公民館
- 七瀬町公民館
- 七瀬中町公民館
- 七瀬南部公民館
- 南俣公民館
- 日詰公民館
- 若里中央公民館

スポーツ大会など

- バレーボール大会 6月11日(日) 東和田体育館
- 女性
 - Aブロック 優勝 栗田公民館
 - 3位 若里西町公民館
 - 優優勝 南中公民館
 - Bブロック 優勝 中千田公民館
 - 3位 母袋公民館
 - 準優勝 日詰公民館
- 男性
 - Aブロック 優勝 栗田公民館
 - 3位 若里西町公民館
 - 優優勝 南中公民館
 - Bブロック 優勝 中千田公民館
 - 3位 母袋公民館
 - 準優勝 日詰公民館
- 野球大会 9月3日(日) 犀川第二緑地
- 卓球大会 11月12日(日) サブアリーナ
- ホワイトリング 役員視察研修会 7月20日(木)

編集後記

当館に頼もしい助っ人が来てくれました。そう、それも2人！文句も言わず、ただひたすらと黙々と働き続けてくれます。優秀な彼らの名は「お掃除ロボットくん」です。下足用にちよつと大柄な助っ人くん。和室の上履きように小ぶりな助っ人くん。開館の1時間前に指示をすれば、館内を綺麗にしてくれます。頭脳も良くて、一回携われば部屋の形を記憶してまんべんなく隅から隅までほこりをとってくれるのです。加えて、和室担当の彼はお腹が空くと自分でエネルギーの補給までします。至れり尽くせりとはこのことですね。これからも彼ら助っ人を大切にしたいと思えます。そうだ、2人に名前をつけよう！